

ピロリ菌除菌にも公費助成を

豊平区福住2条1丁目
医療法人社団慈晃会 福住内科クリニック
院長 田中 浩

胃がんの原因はピロリ菌の感染だったのです。菌の感染が人になるのか？と驚かれる方も多いと思いますが、感染症から発生するがんとして、肝炎ウイルスによる肝がん、パピローマウイルスによる子宮頸がんが知られています。これらの撲滅のため、札幌市では無料で2008年2月から緊急肝炎ウイルス検査を、2011年1月から子宮頸がんワクチン接種を実施しています。

同様に、胃がんはピロリ菌感染により発生し、逆にピロリ菌感染がなければ、ほとんど胃がんにならないことが証明されています。

日本人のピロリ菌感染率は

非常に高く6000万人が感染しています。そのため、毎年新たに12万人が胃がんになり、年間約5万人死亡しています。そして、胃がん治療費は年間3000億円にもなっています。胃がんは60歳以降に発生しやすいのですが、団塊の世代の大集団は60歳代になつており、今まさに胃がん適齢期になりつつあります。彼らのピロリ菌感染率は70%以上と高いので、このままピロリ菌感染を放置すれば、今後10年間で胃がん死亡数・治療費ともに倍になる、とも予想されています。

一方で、ピロリ菌を除菌すれば胃がん発生が3分の1に減少

することが分かっており、公費助成により、仮に感染者の半数を除菌できるとすると、胃がん死亡者数、治療費とも3分の2に減少することが計算上分かれます。ピロリ菌感染の診断・除菌にかかる費用は3000万人分でおよそ6500億円ですが、胃がん治療費は年間1000億から2000億円減少しますので、数年で採算が取れます。

ところが、胃がん予防目的でのピロリ菌の除菌は、公費助成どころか保険適応もない状況です。もはや一刻の猶予もありません。肝がん、子宮頸がんと同様の対策が望まれます。